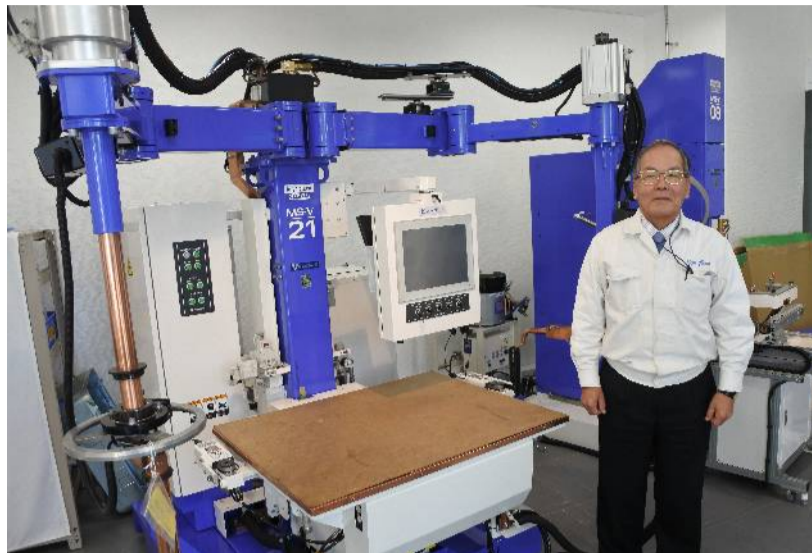


# 工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社  
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3  
商工会館本館1階  
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞  
KANAKAKEI

## ポストコロナ時代到来 中小はどうあるべきか



甲斐部会長  
インタビュー

緊急事態宣言が発出され、行動が制限される中でのスタートとなった2021年。その影響は、地域の製造業にもジワリと押し寄せている。一方でコロナ禍により、DX（デジタル・トランスフォーメーション）や生産効率化に対する機運もかつてないほど高まっている。これからの中小企業はどうあるべきなのか。甲斐美利工業部会長（向洋技研社長）に聞いた。

《変革の波が押し寄せています》  
「これまでの歴史を振り返ると、バブル崩壊からリーマンショック、そしてコロナ禍と、われわれ中小企業は10〜20年ほどの単位で変革を迫られていた。大不況になれば大手企業は取引先となる中小企業をほとんど整理していく。それでも生き残るためには何かを変えていかなければならぬ。今ある中小企業、私たちはそれを繰り返してきた。だから今回のコロナ禍も大変革をするためのきっかけ、天の恵みであるとプラス思考で考える必要がある」  
《中小企業のグローバル化も求められていま》  
「当社は創業して間もない時期から海外市場に挑戦してきた。これまで米国やドイツに飛行機で何度も足を運んだ。しかしながら、今やデジタル化により、海外とのオンラインでやり取りできる。これはある意味、中小企業にとってはチャンスでもある。時間と労力をかけていた海外市場への挑戦が、オンラインを駆使することで大幅短縮につながる」  
《向洋技研の製品も世界中で使用されています》  
「今でこそ世界20カ国で使われ、国内でも普及しているが、ここまでは認められるまでには20年かかった。国内外で共通することだが、たとえ新製品を出したとしても、認知されるまでには20年、30年はかかるものだと思う。同時に、長期ビジョンでやっていく必要がある」  
《今後の中小企業に求められることは》  
「DX化は必要不可欠だと思ふ。日本の中小企業は、外国とは異なり、金属加工にしても溶接にしても、しっかりとした基盤技術を持っている。それらにデジタルを付加すれば、世界でも競争力があることができると考えている。今年度の工業部会もDX化をテーマにした活動に力を入れていきたい」

### 副部会長コラム 「工業よもやま話」

謹賀新年、みなさんお正月は家族団らんで過ごされたことと思います。先月男の子が産まれた親子のほほ笑ましい写真を経営者仲間からもらいました。かわいいうちの3歳の誕生日のお嬢さんの写真も届きましたので、今回は「経営者と家族」をテーマにお話します。経営者にとって、会社と家族を両立させること

は必須です。わが子の成長から人間学をたくさん学んでほしいです。子どもは2才になると言葉爆発が起きて、えっと思う

### 経営者と家族について

ほとどの発言が多々出てきます。まさかこんなふうには「経営者と家族」を深く考えるのかと驚かされます。子育てをしていると「性善説」になります。

それに対し、経営者は人と向き合う職業ですから、ときには「性悪説」になり人間不信になることがあります。子育てはそうではないことを証明して心に安んずる。姉は留学を含めた経験から、英語が堪能となり

### 「ものづくりDX化は急務」

では力不足だから、学校の力を借りて子育てをしたと話してくれました。その考え方は一理あるなと思えます。姉は留学を含めた経験から、英語が堪能となり



価格が1枚300円（税別）。特注で名入れも可能なため、企業のノベルティグッズとしても提案していく。年間10万枚の販売を目指す。

魅せながら  
飛沫ガード  
共伸テクニカル  
新商品を開発

さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中  
近未来技術研究会  
相模原商工会議所工業部会